

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520290

研究課題名（和文）ヘンリー・フィールディングとプレス 18世紀英国における政治文化形成の形態研究

研究課題名（英文）Henry Fielding and the Press: A Study on the Formation of Political Culture in Eighteenth-Century Britain

研究代表者

一ノ谷 清美 (ICHINOTANI KIYOMI)

名城大学・人間学部・教授

研究者番号：30249669

研究成果の概要（和文）：本研究は、ヘンリー・フィールディングの政治的パンフレット、および自身が編集した新聞の論説記事をプレス史の観点から包括的に分析し、18世紀英国における政治文化形成過程の諸相を明らかにしようとするものであった。特に、1745年のジャコバイトの乱に際しての政治的議論に焦点をあてて、彼が政体と宗教に関するホイッグの思想をどのように発展させたのか、また、プレスはジャコバイトの大義をどのように扱ったのかについて論証した。

研究成果の概要（英文）：This study was an attempt to analyse Henry Fielding's political pamphlets and leaders of his own newspapers comprehensively in terms of the press history and to illuminate some aspects of the formation of political culture in eighteenth-century Britain. Focusing on the political argument during the Jacobite Rising of 1745, I demonstrated how he developed the Whig ideas about the political constitution and religion and how the press treated the Jacobite cause.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：ヘンリー・フィールディング、プレス、政治文化、18世紀英国、ジャコバイトの乱

## 1. 研究開始当初の背景

18世紀を通じて、新聞、雑誌、パンフレットの発行点数、頒布数は飛躍的に伸びた。プレスは人々の批判的精神を養い、その結果としての人々の政治的意見、判断は、「議会の外」の力になる可能性を十分に持っていた。

また、この時代の政治文化の特徴のひとつは、文人が政治的議論を牽引したことである。

18世紀の多くの作家が新聞論説、政治パンフレット類の執筆に関わっている。また、政治的含意を持つ詩、政治風刺劇も、広く好まれた。

当該研究代表者は、長年、ヘンリー・フィールディング(1707-54)の研究を専門としてきた。彼は劇作家、小説家としての活躍の他に、生涯に4つの新聞を創刊するなど、政治

的プレス分野でも、影響力のある活動を展開した。しかし、後者の活動に関しては、包括的な研究が少ない。そこで、フィールディング研究とプレス研究という双方向のアプローチを用いることにより、18世紀英国における政治文化形成過程に、プレスがいかに貢献したか、その中でフィールディングのプレス活動はどのような位置を占めていたのかについて、実証したいと思うようになった。

すでに、当該研究代表者は本研究にとりかかる前に、1730年代における、ウォルポール体制批判の意図をもつフィールディングの新聞論説については研究を終えていた。彼が創刊した『チャンピオン』紙と、野党派の新聞『クラフツマン』、『コモンセンス』、またウォルポール政権が出資した新聞『デイリー・ガゼット』とを並置することにより、新聞相互間の論争上の関連性を論証した。あわせて、フィールディングが新聞の世論形成力に対して、この時点では、アンヴィヴァレントな感情を抱いていたことを指摘しておいた。

そこで、本研究では、続く1740年代のプレス研究から始めることにした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ヘンリー・フィールディングの創刊、編集した新聞、および彼の書いた政治パンフレット類に関して、記事内容、政治的イデオロギー、レトリックを分析し、彼の政治観の発展を明らかにすること、さらに、同時代の他紙との関連を明らかにすることによって、18世紀英国におけるプレスによる政治文化形成過程の諸相を検証することであった。

## 3. 研究の方法

(1) フィールディングの刊行した新聞の論説記事、政治パンフレットを時代順に読み分析した。あわせて、同時代の他紙の論説と並置して、フィールディングの政治的著述をプレス史のコンテクストに位置づけた。

(2) ハーバースマスが、「政治的機能をもった公共性」の成立過程のモデルケースとして、イギリス17世紀末から18世紀を取り上げたことから、この時代のプレスが政治文化形成に及ぼした影響についての関心が高まっている。しかし、「公共圏」の問題を文学研究者が扱うとき、歴史的コンテクストを軽視し、普遍的問題として論じる傾向が見られる。そこで、本研究の基盤に歴史学を置くことにした。

特に、名誉革命、ジャコバイトの乱(1745)に関する歴史学の先行研究を学ぶことにより、フィールディングのホイッグ的政治観の歴史的背景を確認した。

(3) 18世紀の新聞を中心としたプレス史研究を学び、各新聞の政治的立場を確認した。

(4) アルジャーノン・シドニー、ジョン・トレンチャードの共和主義思想と、フィールディングの共和主義的傾向とを比較し、政治思想内容、レトリックの面での関連性について考察した。

(5) スコットランドにて、ジャコバイトの乱に関する資料収集を行った。また、1745年のジャコバイト軍進行行路を実際にたどり、地勢の特徴をつかんだ。

## 4. 研究成果

(1) 1740年代のプレス研究は、18世紀の他の年代と比較すると、未開拓の部分が多いと言われている。本研究では、まず、1740年代にフィールディングが創刊した二つの新聞と、それに先立って発表した政治パンフレット類を、精緻に読むことから研究を始めた。

1740年代の国政上の問題は、ジャコバイトの乱の影響のもとにあると言っても過言ではない。近年、ジャコバイトの乱に関する歴史研究は、ハイ・ポリティックスからポピュラー・ポリティックスにまで範囲を広げている。例えば、P.K.モノドの研究(1989)などは、ジャコバイトたちの活動とその社会的反響を、「政治文化」としてとらえている。ジャコバイトの思想、反ジャコバイトの思想が表されている、新聞、パンフレット、バラッド、文学作品、祭り、暴動などを、「テキストのアンサンブルとしての文化」(クリフォード・ギアーツ)として、モノドは解釈している。同様に、H.アースキンヒルやM.ピトックら18世紀文学研究者によるジャコバイト文学研究もある。このジャコバイト研究の広がりの中に、本研究を含めることもできよう。

まず、ジャコバイトの乱に際してフィールディングは、新聞『真の愛国者』を創刊する直前に3つの政治パンフレットを発行した。そのうち特に重要な *A Serious Address to the People of Great Britain* (1745)において、彼は、権利章典と王位継承法を根拠にしてジャコバイト主義を論駁している。このような法に依拠した名誉革命擁護論、スチュアート王朝批判は、当時の新聞論説でも見られるが、フィールディングの議論は他の要素(たとえばスコットランドの歴史的問題、トリーの王朝論)にはほとんど言及しないという点で際立っている。ジャコバイトの乱により露呈した、名誉革命体制擁護論の理論的不整合を、フィールディングはこのパンフレットで補おうとしたのである。このパンフレットの翻訳は、紀要に発表した。また、内容に関する分析は、本年度秋に学会にて口頭発表する予定である(現在、採択結果待ち)。

同じ時期に出版されたパンフレット *The History of the Present Rebellion in Scotland* (1745) では、架空の旧ジャコバイト軍兵士ジェームズ・マクファーソンを設定し、その人物の従軍体験談をもとにした記録という体裁をとっている。実際は、フィールディングが、ロンドンで発行された数種の新聞に掲載されたジャコバイト報道をもとにして、マクファーソンの話を作った。この作品は、モノドの言う反ジャコビティズムの「サブカルチャー」として読むことができる。

『真の愛国者』『ジャコバイト・ジャーナル』紙上の論説内容は、反ジャコバイトの議論から現政権ベラム内閣擁護論に移行している。ジャコバイトの大義を論駁することは、現体制擁護に原理的に直結するため、ベラム内閣擁護は、かつて野党派ホイッグであったフィールディングにとっても矛盾することではなかった。しかし、他紙のレトリックと比較する時、彼の議論がベラム内閣に寄せる個人的な感情に依存している部分が大きいことがわかった。

一方、ジャコバイト擁護の立場の議論においては、ジャコバイトのもつ周縁性は、名誉革命体制と現内閣の安定度を試す試金石として機能していた。フィールディングはこのレトリックを逆手にとり、『真の愛国者』紙、『ジャコバイト・ジャーナル』紙において、ジャコバイトの周縁性をあくまで負の記号として利用した。この観点からの二紙の分析結果は、今秋、紀要論文として公表する予定である。

トリー系論者によるジャコバイト擁護議論に関する研究、ジャコバイト擁護の地方紙の分析は、今後の検討課題である。

(2) 本研究を開始した 2009 年に、J.A. ダウニーによるフィールディング評伝が出版された。その中で、フィールディングの政治思想がオールド・ホイッグの系譜にあることが強調されていた。当該研究代表者は、本書でしばしば言及されている、アルジャノン・シドニーの著作およびジョン・トレンチャードの論説の原典にあたり、ダウニーの主張の検討を試みた。その結果、フィールディングの『チャンピオン』紙上(1739-40)の論説、および同時期のパンフレットには、明確にオールド・ホイッグの共和主義的原理を読み取ることができたが、それ以降の彼の論説には、原理から離れて現実に対処した意見が増えてくることがわかった。特に、彼の最晩年の論文 *An Enquiry into the Causes of the Late Increase of Robbers* (1751) の序文にある国制論では、シドニーらの主張であった原始契約理論、古来の国制論が、時代の変化と共に変容していく過程の方に、フィールディングはむしろ注目している。ダウニーの主張に対

する以上の修正的意見は、本書の書評というかたちで、学会誌に発表した。

(3) 「東方の専制主義(オリエンタル・デスポティズム)」というモチーフを使って、西洋(英、仏)の政治体制の「腐敗」を批判する手法について、モンテスキュー、ポーリングブルック、ジョージ・リトルトンによる政治風刺を例にして考察した。

(4) 18 世紀のプレスの中で重要な役割を担っていたのが、政治風刺版画である。当該研究代表者は本研究以前に、フィールディングの 1741 年のパンフレットと政治風刺版画との関連性を論じたことがあった。この時の研究手法を利用して、本研究期間中に行った学会シンポジウムでの発表では、1784 年春の総選挙時に出された 72 タイトルの政治風刺版画を分析した。政治風刺版画は、新聞、パンフレットにおける対立陣営間の論争を視覚的に表現した、「絵による論争」であることを例証した。とりわけ、この時の選挙キャンペーンで活躍したデヴォンシャー公爵夫人を描いた風刺版画においては、そのヴィジュアル・イメージが、選挙キャンペーンの広報戦略と、版画出版者の商業的意図とが重なり合う、一つの磁場の中で作りあげられたものであったことを、具体的に示した。フィールディングは関係していない事例であるが、異種メディア間の相乗作用による世論形成過程のケース・スタディとして、有意な結果が得られた。この研究から、プレスによる政治文化形成の形態は、一種の政治的コミュニケーションとして分析できることが確認できた。

(5) 3 年間の研究期間に、1740 年代 50 年代のロンドンと地方で発刊された新聞のマイクロフィルムを、相当数集めた。この分析は今後も継続して行う。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

一ノ谷清美、東方の専制主義 ジョージ・リトルトン『イングランドのペルシャ人からの手紙』、日本ジョンソン協会年報、査読無、第 33 号、2009、6 - 10

〔学会発表〕(計 1 件)

一ノ谷清美、風刺版画に描かれたデヴォンシャー公爵夫人の選挙活動、日本ジョンソン協会第 42 回大会シンポジウム、2009 年 6 月 1 日、アルカディア市ヶ谷私学会館

〔その他〕(計4件)

[翻訳]

一ノ谷清美、イギリス国民に宛てる重大な告辞(2)、名城大学人文紀要第100集48巻1号、2012、1-10

一ノ谷清美、イギリス国民に宛てる重大な告辞(1)、名城大学人文紀要第99集47巻3号、2012、1-9

一ノ谷清美、ヘンリー・フィールディング作「友へ、妻を選ぶにあたって」、名城大学人文紀要第96集46巻3号、2011、1-13

[書評]

一ノ谷清美、J.A.Downie. *A Political Biography of Henry Fielding*. 英文学研究、日本英文学会会誌、査読有、第88巻、2011、134-39

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

一ノ谷 清美 (ICHINOTANI KIYOMI)

名城大学・人間学部・教授

研究者番号：30249669

### (2)研究分担者

なし ( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

なし ( )

研究者番号：